

“KANAGAWA”
福祉タイムズ
2003 9 No.622

発行日 2003年（平成15年）9月15日
毎月1回15日発行
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>
編集発行人 清水勝夫
定 価 100円（郵送料込）
印刷所 神奈川新聞社
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「動けることが楽しい」ねんりんピック徳島大会（10月18～21日）、ソフトボール交流大会に参加する本県代表チーム「相模原アリーナ」には59～80歳の25名の選手がいる。チームのレベルアップと健康管理に役立つストレッチ体操を指導する二塁手の佐竹紀夫さん（最前列右端）は、地域の他のチームにも所属して年間70試合以上をこなす。平日は仕事、土日は練習という佐竹さんは「練習でも100%燃焼することが楽しい。これだけ体が動くのもストレッチで体力の維持を図ったおかげ」と微笑む。（写真・文 菊地信夫）

あんぐる

アンズ・クリ・コレラにガン、スッポン・ネズミ・キツネにタマゴ、マツ・モミ等々から何を連想されますか？

実は各々に茸（タケ）を付けると、全て「キノコ」の名称になるのです。

九月の声を聞くとお尻がモゾモゾ、キノコ狩りのシーズン幕開けです。休みになると早起きしては、富士山麓へと足を運びます。

春夏秋冬、四季折々アウトドアブームに乗り、自然と接することが多い中、森の妖精「キノコ」ほどメルヘンの世界はありません。ほの暗く、しっとりとしたブナ・モミ・ツガ林へと足を踏み入れ、キノコを探します。

初め見つからなかったキノコも、徐々に目が慣れてくると一本又一本、キノコの家は紅テング茸、黄色に紫・白色と彩色、姿形に香りまで千差万別、キノコの群生にしばし目を奪われます。

林の五線に踊る音符、まさに緑のフィールドで森とキノコが奏でるシンフォニー、思わず耳を澄まして聞き入ります。

この間、頭の中は空っぽ。森林パワー、キノコパワーに明日へのエネルギーを与えてもらう瞬間です。

紅梅学園総合園長 大峽健一

目次……………CONTENTS

誰もが参加できる世の中をつくる……………	2・3
地域福祉コーディネーターを考える交流会開かれる……………	4
雇用と年金の接続を目指して……………	5
地域支援はまず家族を知ることから……………	6
かながわ長寿社会開発センターいきはつらつ……………	7
連載・心のゆたかさはくむ(6)……………	10・11

誰もが参加できる世の中をつくる

－「かながわともしびセンター」のＩＴ普及支援事業から－

国の施策の推進や経済情勢によるパソコンなどの低価格化、インターネットなどの情報通信技術（ＩＴ）の普及によって、地域にいながらにして情報の入手や仲間づくり、各種サービスの利用が容易になり、私たちの生活環境はより便利に、そして快適になろうとしています。

この便利さを、ともすれば情報弱者になりがちだった障害のある人や高齢者に活用してもらい、生活の豊かさや楽しさ、安心につながられれば…。

今回の特集では、障害のある人や高齢者などへのＩＴ普及に向けた状況をご紹介しますながら、本会での取り組みをご紹介します。

知りたい情報を自分で探せる時代

ＩＴはこの数年の間に、国をあげて積極的な活用に向けた環境の整備がすすめられ、急速に進展してきました。インターネットやメールなどの普及はもとより、誰でもＩＴを使うことができるようソフトの開発や機器のユニバーサル化が進むにつれ、障害のある人や高齢者の生活環境が大きく変わろうとしています。

例えば、視覚に障害のある方は、「音声読み上げソフト」を使い、文字情報を音声に変換することで、知りたい情報を自分で探し、読むことができる時代になりました。

筑波大学附属盲学校教諭で、パソコンボランティア団体・横浜ドリムナビゲーター代表の佐々木夏実さんは、「昔は盲学校でラブレターの話をすると、読んだことのない生徒たちは実感がなく白けてしまっていました。今は、ソフト等を活用することで直接やりとりができる時代となり、中には『メールでラブレターをもらった！』と誇らしげに報告してくる生徒もいます」と話されます。

また、「当事者自らが主体となって情報を集め、提供することに意味がある」と語る県障害者自立生活支援センター事務局長の鈴木治

郎さんの言葉通り、障害のある人や高齢者自身がＩＴを活用して必要な情報を得ることが、その情報の効果を最大限に生かすことができるとともに、ＩＴがその人らしい生活を実現していく手段の一つとなるのだと思います。

しかしながら、パソコンなどの操作を覚えることが難しい、操作方法を覚えてくれる教室に通い難



手の不自由な人でも使いやすいマウス（ケンジントンマウス）を使用。押す力を補強する自助具も合わせて利用しています

いなどの理由で、自分には縁遠いものだと感じ、活用をためらっている人も少なくないようです。

ＩＴ推進に向けた取り組み

平成十三年に施行された国の「ＩＴ基本法」（高度情報通信ネットワー

ク社会形成基本法）では、「すべての国民が情報通信技術の恵沢を享受できる社会の実現」を掲げ、「利用の機会等の是正」を規定しています。

本県では、県民の誰もがインターネット上の情報を入手することが出来るよう、障害のある人や高齢者のほか、ボランティアや有識者の方々に意見を求め「情報バリアフリーガイドライン」をまとめました。

県内の市町村でも、様々な取り組みが行われています。

二宮町では、ＪＲ二宮駅下車徒歩二分の立地を生かして「ＩＴふれあい館」を本年四月にオープンしました。施設には、障害者向け支援機器やソフトを備えたパソコンのほか、二十人まで利用できるＩＴ研修室があります。この施設は建物がバリアフリー化されているということもあり、障害のある方も含め、開所以来三千人余りの方々が利用されています。

また、町ではパソコン利用を支援するボランティアを養成しており、希望者（町民対象）には、在宅へ訪問して支援を行っています。

平塚市では、障害者地域作業所「フレンズ湘南」（運営主体・湘南社会復帰協会）が、通所する精神に障害のある方の生活を豊かにし

ていこうと、パソコンの操作やインターネットの活用方法を学習できるプログラムを取り入れ、ボランティアとともに活動を行っています。

この他、児童養護施設や重度の知的障害者施設などでも、地域のボランティアの協力によって、普及に向けた取り組みが広がっています。

本会のＩＴ推進事業の取り組み

本会では、障害のある人や高齢者のＩＴの普及支援推進に向け、「障害者・高齢者等ＩＴ推進協議会」を昨年度設置しました。

協議会では、利用主体である当事者の視点に立ったＩＴを推進していくことの大切さやボランティアやNPOなど、市民参加による支援体制の整備、既存の施設機能の活用などが確認されました。その一つの活動として、本年八月にかながわ県民センター十三階に「障害者等ＩＴ展示体験サロン」を開設しました。

インターネットに接続できるパソコンのほか、障害のある人や高齢者を支援する機器やソフトなどが利用できるこのサロンでは、パソコンを利用したことのない方には、体験を通して慣れ親しんでもらうきっかけの場として。

また、既に使いこなされている方々には、仲間作りや活動拠点として。さらには、福祉従事者や学生、ボランティアの方々には、様々な機器やその活用方法などを知ってもらえる場として活用していただけたらと考えています。

なお、毎週土曜日の午後には、ＩＴの定例相談日を設けました。相談では、当事者の視点に立った対応ができるよう、重度障害のある方に相談員をお願いしています。

サロンには、「高齢の祖母は手が震えがちでパソコンなんて使えないと思っていたが、支援機器を活用すれば十分使えることがわかった」という家族からや「これだけ多くの支援機器やソフトが整って



口もとにあるチューブのようなものは息や振動でパソコンを制御できるパソコンの入力機器です

いる所は地元にはないので、ここでグループの勉強会を行いたい」というボランティアなど、利用された方々からの声が寄せられています。

広がるパソコンの輪と今後の課題

障害のある人や高齢者のＩＴ利用支援に欠くことができないのが、「パソコンボランティア」(通称…パソコンボラ)の存在です。



ＩＴ展示体験サロンの一角。パソコン等を使いやすくできる機器やソフト、自助具などが多数展示されています

「パソコンボラ」の語は、本県が発祥の地とも言えます。この言葉は、今から十年ほど前に、ワープロ通信により障害者等への支援を行っていた本県のボランティアたちによって創られた言葉だそうです。

現在は二十団体以上のパソコングループが、県内各地の公共施設や福祉施設、障害者地域作業所等で活躍しています。しかし、住民に身近な地域での活動拠点の整備やグループ相互間や関係機関とのネットワークが十分でなく、グループの持つ知識や技術を十分に発揮できていないといった状況があります。また、高齢者や障害者向けの支援機器やソフトの入手方法などの情報が不足しているといった声も聞かれます。

さらに、企業を定年退職したシニア層を含め、多くの方がパソコンの活動に関心を示しており、市民参加による障害者等へのＩＴ普及支援は、今後より一層活発になるものと思われれます。そうした人的資源をどう有機的につないでいくかも課題の一つといえます。

障害のある人もない人も高齢者も、すべての人がパソコンなどのＩＴを活用できるようになることで、生活の豊かさや人と人とのつながりを感じ、社会参加への一歩を踏み出して欲しい。

かながわともしびセンターでは、ＩＴ普及支援に向けた機会づくりや情報収集、提供、地域資源のネットワーク化に向けた事業展開に努めていきたいと考えています。

(かながわともしびセンター)

“赤い羽根”共同募金十月一日よりスタート！

十月。“赤い羽根”の季節を迎えます。

昭和二十二年の運動開始以来、数えて五十七回目となります。

長い歴史のあるこの運動ですが、時代の移り変わりとともに、共同募金の配分先も多様化してきました。

今、地域では、住民同士がお互いに助け合う活動が輪を拡げています。

共同募金では“誰でもが住み慣れた街で安心して暮らしていく”ための活動を積極的に応援していきます。

現在、共同募金の支援対象となる民間の社会福祉施設や団体は、一千九百五十カ所。

今年も、目標額の十二億五千万円を大きく上回る資金援助の要望が寄せられています。

それぞれの立場を尊重しながら、ぜひ担い手としてのご協力をお願いいたします。

◆ 県共同募金会

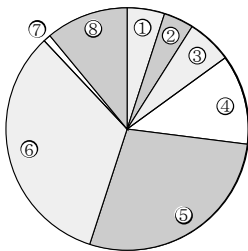
☎ 045 | 312 | 6 3 3 9



平成15年度にお寄せいただきます寄附金は、次の計画で神奈川県内の福祉活動を支援します。

- ①在宅福祉サービス団体へ 5,600万円
在宅高齢者・重度障害者の家事、介護、配食、送迎サービスを推進する非営利団体の活動支援に
- ②社会福祉団体へ 4,700万円
障害者・高齢者・難病当事者団体、被虐待女性支援団体などの活動支援に
- ③障害者地域作業所・生活ホームへ 7,500万円
障害者の就労訓練用機器の整備や、生活支援のための各種備品類の整備に
- ④民間社会福祉施設へ 1億5,000万円
児童・障害者・高齢者福祉施設を利用する方々のための、送迎用車両の整備や、各種設備の整備に

平成15年度配分計画額
12億5,000万円



●共同募金の支援対象施設・団体：1,950カ所

- ⑤市区町村社会福祉協議会へ 3億4,414万円
在宅福祉活動やボランティア団体の育成等、地域福祉の推進を図る社会福祉協議会の活動支援に
- ⑥年末たすけあい援護活動へ 4億2,354万円
市区町村を単位として実施される、生活支援を要する世帯のための激励事業等に
- ⑦災害時の準備金として 1,303万円
国内で発生する地震・風水害等、大規模災害時の被災地支援のために
- ⑧共同募金を推進するために 1億4,129万円
“たすけあいの心”を普及するための「小・中学生福祉作文コンクール」の実施や、共同募金実施のための各種資材の制作に

地域福祉コーディネーターを考える交流会開かれる

神奈川県と本会が主催の「地域福祉実践交流会」が、八月二十七日の茅ヶ崎市を皮切りに、小田原市・海老名市・横浜市の四会場で開催されました。

地域で様々な活動をされている方々に参加していただき、情報交換や交流を深めながら、地域福祉コーディネーターの必要性を考えようと開催された本交流会。

冒頭、県福祉部地域福祉推進課田中章課長より、「地域福祉の推進に向け、行政サービスと地域の中間の支え合い活動を有機的に結び付ける仕組みづくりが急務となっている。県では社会福祉審議会の答申を受け、地域福祉コーディネーターの養成に向けた取り組みを進めており、交流会を通じ、その役割への理解を深めるとともに、人的なネットワークづくりのきっかけ



地域づくりのキーパーソンとなるコーディネーターの役割について話す山崎氏

けとなれば大変嬉しい」との挨拶がありました。

茅ヶ崎会場の講演会では、県立保健福祉大学保健福祉学部長で社会福祉審議会委員長の山崎美貴子氏より、「核家族や高齢者夫婦・単身高齢者世帯など多様な家族形態を生み出している社会情勢の中、一人ぼっち（社会的孤立）をなくし、誰もが排除されることのない地域社会をどう築いていくかが課題となっている。住民一人ひとりが、多くの優しさの中で安心して暮らせるまちづくり。その中心となる地域福祉コーディネーターは、サービスの繋ぎ手・掘り起こし手・支え手・見守り手として、住民の傍らにいて心に添える人であって欲しい」とのお話がありました。

その後、県立武山養護学校・飯村薫氏、湘南こそだちフアクトリー・大塚恵氏、千丸台地区社協・南出俊男氏による実践活動報告と、発表者を交えての分散会が開かれ、参加者はそれぞれの活動紹介や情報交換をしながら、地域福祉コーディネーターの果たす役割を確認し合うとともに、今後の活動のあり方などを語り合いました。

◆ 県地域福祉推進課地域福祉班

☎ 045 | 210 | 4 6 3 8

雇用と年金の接続を目指して

―「今後の高齢者雇用対策に関する研究会」報告書まとまる―

今後の高齢者の雇用・就業機会の確保に向け対策を検討してきた、厚生労働省の「今後の高齢者雇用対策に関する研究会」が、これまでの議論をもとに報告書をまとめました（※）。

本報告書では、依然厳しい中高年齢者の雇用情勢や、今後の労働力人口の変化などの社会的背景を視野におきながら、今後の高齢者雇用の基本的考え方を、「意欲と能力に応じ可能な限り社会の支え手としての役割を果せることのできるよう、意欲と能力がある限り年齢にかかわらず働き続けること

のできる社会の実現を図ること。

また、雇用と年金との接続を強化し、少なくとも年金支給開始年齢までは年齢が理由となつて働くことが阻害されることのないシステムを整備することが急務」と明記。

一方で、これまで年齢という要素が、企業の雇用管理上重要な役割を果たしてきたという背景や若年者雇用対策との関連性なども視野に入れながら、今後の対策のあり方を示しています。

※ <http://www.mhlw.go.jp/houdou/2003/07/h0731-3.html>

今後の高齢者雇用対策のあり方

1. 年金支給開始年齢までの雇用の確保策

- 定額部分の年金支給開始年齢の引上げに合わせた段階的な定年の引き上げ。又は継続雇用制度の導入による年金支給開始年齢までの雇用の確保
- 労使間の十分な協議による賃金・人事処遇制度の見直し
- 上記制度を整備することは、意欲と能力のある限りは年齢を理由として離職させられることはないということを意味するものであって、当該年齢までの雇用を無条件に保障するものではなく、労働者は自らの体力、能力、適性の維持・向上に努めることが必要

2. 中高年齢者の再就職の促進策

- 募集・採用時の年齢制限の是正（募集・採用時の年齢制限の禁止又は、年齢制限を実施しようとする事業主等に対し説明義務を課すこと等）
- 求職者及び求人者の相互理解の促進（トライアル雇用制度・紹介予定派遣制度の積極的な活用等）
- 事業主都合離職の場合の事業主による再就職援助（労働者の能力・職務経歴等の情報作成等による再就職支援等）
- 労働者の能力開発等の支援（早い段階からのキャリア設計を含めた職業生活設計と能力開発支援）

3. 高齢者の多様な働き方に応じた就業機会の確保策

- 労働者の多様なニーズに対応した雇用・就業機会の確保（短時間正社員制度の導入促進、起業・創業の支援、シルバー人材センターにおける派遣就労に係る相談・実施やボランティアに関する相談・情報提供等の実施等）

読者の声

―知識とともに大切なもの―

「待ってください！男性が倒れているんです！」

電車の出発の合図が鳴り終わるまさにその時、一人の女性が駅員に駆け寄り言いました。

彼女の指さす方を見ると、私の隣の車両に、抱きかかえられるようにして座っている人が見えました。駅員は大声で出発の制止を運転手に告げ、倒れている男性のもとにやってきました。駅員の問いかけに、男性は何やら答えているのですが、かなり危険な状態である様に見えました。ですが、何分経っても二人の問答が続いているのです。

ようやく異常に気付いたほかの駅員たちも、「タンカ！タンカ！」と騒ぐばかり。確かに病気によつてはむやみに手を出さない方がいい場合もあるでしょうが、彼らの対応の鈍さには、苛立ちと情けなさを感じてしまいました。

もし、彼らに救急の知識あるいは駅に緊急の処置室やそれらをカ

バーできる体制があったら、もっとスムーズに事が運んでいたと思います。

駅に限らず、人の多く集まる所では、最低限の緊急時の知識と設備の普及を考えるべきだと思います。

そして、私たちも教育の一貫として、緊急時の対処方法や困った方への援助方法を学ぶべきなのかもしれません。

あの時、車内にいた皆が自分の無力さを感じていたと思います。しかし、私は十分間も止まった電車の中、誰も文句も言わず、むしろ倒れた男性に声を掛けたり、励ましたりしていた方々の姿に感動を覚えました。そんな温かい心を広げていくことも大切なことだと感じました。

（中居幸子）

▶投稿をお寄せください◀

「福祉について思うこと」をテーマにした投稿をお待ちしています。他のテーマや本紙内容へのご意見ご感想でも結構です。分量は700字程度。匿名でも結構です。



郵送：〒221-0844
横浜市神奈川区沢渡4-2
FAX：045-312-6302
Mail：kikaku@jinsyakyo.or.jp
いずれも「県社協企画課タイムズ係」と明記のこと

県社協のひまわり

地域支援はまず家族を知ることから

保護司部会では、去る七月三十日、「社会を明るくする運動」強調月間に合わせ、民生委員児童委員部会との共催で「青少年問題を考える集い」を開催しました。今回は四名の発表者を迎え、具体的事例をもとに、地域支援のあり方について意見をいただきました。



田口ゆり子さん(右)の傍らで発表を見守るふみえさん(左)

子どもたちの声を電話で受けとめる活動を続けている、よこはまチャイルドライン代表の徳丸のり子さんは、これまで相談傾向を踏まえて、「新たな地域支援の形態の一つとして、子どもが気軽に相談できる場を広げたい」。里親の田口ゆりさんは、「現在養育している里子の育ちの変化を通じて、家庭の持つ力が大きいことを実感している」と話し、子どもにとって、自分の心の内を話せる場所が必要であることを強調しました。

さらに、田口さんと養子縁組された田口ふみえさんは、里子として養育され、現在に至るまでの心境を盛り込みながら、「里子同士が悩みを打ち明けられる場が欲しい。また、里親制度に対する理解と協力をお願いしたい」と訴え、その堂々たる発表に大きな拍手が沸きました。

また、長年にわたり児童の自立支援活動を行っているえんどうホーム代表の遠藤浩さんは、「幼少期の様々な愛着の体験が、人を知り

言葉を獲得していくもの」として、この時期の関わり方を重要視しています。

親子関係が希薄になってきていると言われている昨今、地域の支援者として家庭に関わることは容易ではありません。そのためには、現代の家庭や家族について実態を知ることが大切で、世代を越え問題点を共有し、考える場として、この集いの成果が得られたのではないかと思います。

(生活支援担当)

第42回神奈川県社会福祉研究発表大会発表者募集のお知らせ

平成16年2月に開催予定の本大会での発表者を募集します。
この大会は、福祉従事者の方々の主体的・自主的研究活動の支援と、その研究成果の普及・普遍化を図ることを目的として、毎年開催しています。
ぜひこの機会に、日ごろの研究成果を発表してみませんか？

- 【期 日】平成16年2月13日（金）
【会 場】県社会福祉会館（横浜駅下車徒歩10分）
【発表内容】県内在勤の福祉・保健・医療関係従事者による研究または実践内容であれば自由
【発表形式】口頭発表（分科会形式によるコーディネーターのもとでの発表）もしくは展示発表（掲示物等による発表）※形式については、別途協議させていただく場合もあります。
【切 り 取 り】10月31日（金）※発表者は「研修研究支援事業推進委員会」で審査、決定の上、後日文書にて通知します。
【問 合 せ】かながわ福祉人材研修センター研修研究課
☎045-311-1429・FAX045-313-0737

【最近の発表の主なテーマ】

- 〈児童のケア〉
* 被虐待入所児の家庭復帰に向けた処遇～心理職員との共働の中で～
* 児童相談所で扱った重篤な性的虐待を受けた思春期女児への援助の過程を通しての実践報告
- 〈障害者のケア〉
* 知的障害者施設における高齢者へのケアについて
* 身体障害者療護施設における重度重複障害者の「問題行動」と個別支援
* 知的障害者更生施設における多飲水と水中毒
* 中軽度知的障害児への就労支援のあり方について
* 单身生活を支える社会資源と支援のあり方の検討
- 〈子育て支援〉
* 保育園に子育て広場をつくろう！
* 保育園における地域子育て支援活動
* 親子の居場所調査から見える子育て支援の現状と提案
* 子育ての視点からみた福祉のまちづくり
- 〈リスクマネジメント〉
* 社会福祉施設における利用者間の暴力とその管理
* 施設におけるリスクマネジメント～ヒヤリハット報告書から得られたもの～
* 知的障害者施設における身体拘束について
- 〈地域・人材支援〉
* 聴覚障害者の立場からみた支援費制度の課題～障害福祉相談員の役割～
* 新人OJTにおける指導課題の掘り起しとその取り組み



かながわ長寿社会開発センター

いき² はつらつ

高齢期を健康で、いきいきと過ごしたいー
明るく活力ある長寿社会の実現に向けた取
り組みを紹介します。

〈問合せ〉 ☎045-311-8734 FAX045-312-6302
http://www.nenrin.or.jp/kanagawa/

身近な拠点を活用して 新たな生きがいがづくり

仕事や子育てが一段落し、何かやってみたいと思う人は多いと思います。身近な公民館や地区センターなどに足を運ぶことで、新たな生きがいがづくりや仲間づくりをすすめるシニアが増えていきます。

身近なところに情報が

県内の各市町村には、公民館や地区センターなど（以下、施設）があり、シニアの身近な活動拠点となっています。

施設の窓口では、施設を利用するグループの構成や活動状況に関する情報のほか、新規メンバー募集の情報を入手することができます。そのほか、施設が発行する「公民館だより」のような情報紙やインターネットのホームページなどから入手できる場所もあります。また、「公民館まつり」などの行事等に参加することで、実際のグループ活動の様子をうかがい知ることができます。

出会いと仲間の輪が広がる

これらの施設では、趣味を広げたり、教養を深めたりすることのできる文芸や手芸、スポーツ、園芸、料理など、様々な生涯学習講座が開かれており、新たな仲間づくりの絶好のきっかけになっています。

講座に参加することにより、共通の話題を持つ知り合いができるだけでなく、講座修了後に、気のあった受講生たちが集まってグループを結成し、新しい活動が広がっていくことも少なくありません。

グループで活動することにより「知り合い」から「仲間」になり、「仲間」がいることにより、気持ちの分かち合いや良い意味での競い合いが、個々の生活の張りを生むだけでなく、グループの活動の継続や向上につながっていきます。

また、施設は新たな仲間づくりに向けた拠点にもなります。



公民館の発行する情報紙には、催しや各種教室の案内などが満載

例えばグループの中で、「植物が好き」と話すと、「植物の愛好会を知っているよ」と、新たなグループ活動への誘いがあり、そちらにも顔を出すことでまた新たな誘いがかかってくる。こうして「友だちの友だちはみな友だち」と、つきあいの幅や深さが広がっていくのです。

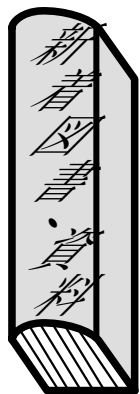
勇気をふるって新たな一歩を

そうはいっても、知らない世界に足を踏み入れる「ためらい」があることも事実です。

特に、長年サラリーマン生活を送ってきた方々にとって地域社会は馴染みが薄く、施設の存在も知りませんし、知ってはいても、最初の一步が踏み出せずに、悶々としている人もいると聞きます。窓口で相談しようと思っても、「今さらこんなことを聞いていいの?」「何ができるの、何をしたいの?」逆に突っ込まれたことを聞かれたらどうしよう?」と、二の足を踏んでしまう方も少なくないのです。

この七月に公表された『平成十五年版高齢社会白書』によると、高齢者が学習・社会活動に参加したきっかけは、「友人・仲間のすすめ」（男性三七・〇％、女性四九・四％）が最も多く、何よりも「お誘い」の大切さが感じられます。

高く感じた壁も、飛び越えてみたら低かったというのがこの世界。本人の少しの勇気も必要ですが、何かやってみたいと思っている人の肩を少し押してあげることで、新たな社会活動への参加を発見できる。そんなきっかけづくりの手伝いが、今求められているのかもしれない。



図書

読んでみよう！

★児童虐待が問題となる家庭事件の実証的研究(家庭裁判所調査官研修所、司法協会)
家事事件30事例、少年事件10事例を分析し、児童虐待が深刻化するメカニズムの解明に有益な視点を明らかにしている。

★新型特別養護老人ホームの開設と運営の手引き (株)ヒューマン・ヘルスケア・システム)

★個室・ユニットケアの老人病院 21世紀に生き残るための選択 (福岡痴呆ケアネットワーク・NPO法人全国抑制廃止研究会、法研)

私のおすすめの1冊

「子どもの福祉とこころ～児童養護施設における心理援助」
村瀬嘉代子 監修 高橋利一 編



茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
社会福祉専攻科専任講師
榎本則幸

児童養護施設には、広い範囲で深刻なダメージを受けている虐待された子どもの入所が増えています。施設では、複雑・多様な課題を抱える子どもに対して、あらゆる生活場面において実に繊細な「こころ」のケアが求められ、健全育成と自立の支援に努めています。本書では、施設での事例研修会を中心としながら、福祉・教育・心理など多角的なアプローチによって理解を深めていき、子どもの個々の諸問題に応じた「いつ何時も、どんな現場でも肝要となるツボ」を探り当てています。援助職員として、ひとりの人間として、多くのことに気づかされる一冊です。



2002年刊
新曜社・定価1,900円

資料

- ★全国障害者社会資源マップ、03年度版 (きょうされん、中央法規)
- ★自立と援助の障害者福祉 (高橋憲二、かもがわ出版)
- ★福祉国家の危機と地域福祉 (地域社会政策論の試み堀内隆治、ミネルヴァ書房)
- ★自治体の理学療法士・作業療法士のしごと (山本和義、医療文化社)
- ★福祉の仕事をしたい (平野隆彰、ミネルヴァ書房)
- ★ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法 (平山尚他、ミネルヴァ書房)

価値あり！

★ケアマネの地域活動 in かながわ2002 (特定非営利活動法人神奈川県介護支援専門員協会)
現場で活動している介護支援専門員の活動を紹介し、一年間の地域連携ネッ

トワーク事業を取りまとめた報告書。

★ミニデイサービス活動に関するアンケート調査 (J A 愛知助け合い組織協議会・愛知県農業協働組合中央会)

★2015年の高齢者介護、高齢者の尊厳を支えるケアの確立に向けて (全社協) ★ひばりが丘レポート (神奈川県立ひばりが丘学園実践報告集Vol.6 (同学園))

★全国知的障害関係施設名簿2002・2003 (日本知的障害者福祉協会) ★鶴沼地区社会福祉協議会 創立50周年記念誌 (藤沢市鶴沼地区社協)

★CAPP訪問活動マニュアル (ボランティア用 (日本動物病院福祉協会))

★自殺予防いのちの電話 (フリーダイヤル) 実践報告書 (日本いのちの電話連盟加盟センター・いのちの電話)

★平成14年度 先進福祉施設派遣研修報告書 (和歌山県社協)

「福祉資料室」をご利用ください！

閲覧室のほか、文献検索、利用相談等のサービスを行っています。

◆利用時間：月～金(第3金曜、祝日、年末年始等を除く)の9時～17時

◆問合せ：☎045-311-8865
FAX 045-313-9341

◆インターネットでの資料検索
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/tosyo/>

～「新着情報コーナー」ができました。ぜひご利用ください！～



今月のいちおし クリック！

「痴呆老人をかかえる家族の会」のホームページをご紹介します
呆け(痴呆症)に関する当事者が集まり発足した、全国40都道府県に支部を持つ会の活動紹介のほか、呆けを理解するための情報コーナーや国際アルツハイマー協会の最新情報などが掲載されています。また、子どもたちへの啓発サイト「おばあちゃんどうしたの？」では、イラストを選択することで呆けを正しく理解できるよう工夫されています。



URL <http://www.alzheimer.or.jp/>

Information

法人土地基本調査・法人建物調査

国土交通省では、全国の法人を対象に、土地や建物の所有や利用状況などを把握するための調査を行っています。調査結果は、統計資料として公表され、土地に関する施策の企画・立案に際しての基礎資料として用いられるほか、学術・研究機関、企業等でも幅広く活用されます。

◇対象Ⅱ①資本金1億円以上の全法人、②1億円未満の法人及び会社以外の法人については県内約2万2千法人を抽出

◇調査方法Ⅱ9月中旬までに対象法人に調査書を送付

◇提出期限Ⅱ10月31日(金)

◇問合せⅡ①国土交通省土地・水資源局土地情報課 ☎03―5253―8111(代)、②県企画部土地水資源対策課法人土地基本調査担当 ☎045―641―3131

社会福祉・医療事業団助成事業

◇対象Ⅱ社会福祉に関する事業を行う法人又は団体

◇対象事業Ⅱ①高齢者・障害者福祉基金（地域の福祉・介護のネットワークの形成、緊急に充実を図る必要のある高齢者・障害者在宅福祉の推進、高齢者・障害者の社会参加、民間非営利団体等による地

域の福祉・介護活動）、②子育て支援基金（地域や家庭における子育て支援事業、青少年の非行防止・健全育成事業、子育てや非行児童等に関する広報啓発活動、小・中学生やその家庭に対する支援事業、③障害者スポーツ支援基金（障害者スポーツの育成・強化事業、障害者スポーツに対する意識高揚、地域におけるスポーツを通じた障害者の社会参加の推進）

※他に重点助成テーマがあります

◇助成額Ⅱ一件につき上限200万円

◇〆切りⅡ10月31日(金)

◇問合せⅡかながわボランティアセンター ☎045―312―1121(代)（県域団体）、横浜市協横浜ボランティアセンター ☎045―201―8620（横浜市内団体）、川崎市社協ボランティア活動振興センター ☎044―244―3563（川崎市内団体）

シルバーカーミニ博覧会

◇内容Ⅱ①ミニ博覧会・9月26日(金)～10月10日(金)（入場自由）、②シルバーカーの種類と選び方のポイント・10月4日14時～15時、③転倒予防教室・10月8日(水)14時～15時（②、③は要事前申込み）

◇場所Ⅱかながわ県民センター13階 福祉用具展示場（横浜駅西口徒歩4分）

◇問合せⅡかながわとしびセンターバリアフリー普及課 ☎045―312―1121 内3300

第6期色彩ピアカウンセラー講座

◇内容Ⅱ色彩が好きな人や色彩心理に興

味がある方などを対象に、色彩ボランティアに向けた知識や技術を学びます

◇日時Ⅱ10月18日開講後毎月第三土曜日に開催10時～15時（16年3月まで）

◇会場ⅡJR飯田橋駅近辺を予定

◇参加費Ⅱ7万5千600円（教材費他）

◇〆切りⅡ10月12日(日)

◇問合せⅡ色彩NPO日本カラーネットワーク協会 ☎03―3406―9185

介護支援専門員実務研修受講試験会場について

10月26日(日)実施の標記試験は申込み者多数のため、二会場（東海大学湘南校舎、慶応義塾大学日吉校舎）で実施いたします。受験票送付時に実施会場をご案内いたしますのでご注意ください。

◇問合せⅡ同試験実施本部 ☎045―311―8899

寄付金品ありがとうの会がまた

「一般寄付金」マカザランカ 佐藤憲子マ広瀬公子マ田中良平マ協隆志「としび基金」マ横浜農業協同組合二俣川支店マ富士シテイオ(株)（F.U.I.横浜南 上星川、稲田堤、善行、佐原店）マ県立循環器呼吸器病センターマ日本信販(株)横浜北支店マ県立看護専門学校マとしびショップよこすかマ県自動車税管理事務所横浜支所マ津久井地区行政センター商工労働部マ葛の湯マ沖山英子マ関野光枝マ太田雄造マ杉政泰三マ山内富美子マ鈴木康夫マ池谷博幸マ菅井良幸マ岸田宗一郎マ内田輝光マ高橋昭マ小川嘉一マ渡辺文子マ辰巳弥吉マ高橋輝雄マ遠藤寂香（計二八三、一三七円）

【寄付物品】マ神奈川県定年間問題研究会マ横浜市退職婦人教職員会の会マ原田三郎（敬称略）



30th

国際福祉機器展 H.C.R. 2003

Tel. Home Care & Rehabilitation Equipment 2003



会 期

2003年10月15日(金)～17日(日)

開場時間

午前10時～午後5時

会 場

東京ビッグサイト 東展示ホール
(東京都江東区有明3-21-1 Tel.03-5630-1111)

入 場 料

入場無料 (当日登録制)

出展社数

14カ国626社

ホームページ

<http://www.hcr.or.jp>

世界の最新福祉機器を総合展示
14カ国626社出展！

H.C.R. 2003出展製品カタログ集

A4判/200頁/1,000円(税別)
FAXでお申込み、主催事務局まで
お申込みください。



シンポジウム

米国高齢者医療・介護の現状に学ぶ
＝日本の高齢者ケアの方向を探る＝

日 時

10月16日(木) 11:00～14:30

参加費

2,000円 ※東京駅前会場

会 場

東京ビッグサイト国際会議場

お申込みは、FAXサービスかH.C.R.ホームページ
(<http://www.hcr.or.jp>)で。

シンポジウムに関するお問い合わせ先
Tel.03-3508-1229 シンポジウム係

お申込みの入手方法

お手持ちのFAXから
03-5443-0544をダイヤル

会場に置いて、
ファックス回線「31024」
ダイヤル回線「31024」
も入力

H.C.R. 2003主催事務局

〒100-8885 東京都千代田区西が岡3-3-2 新西が岡ビル
保健福祉広域協会 Tel.03-3500-3582/Fax.03-5612-9798

(9)

第622号 福祉タイムズ 2003.9.15 第三種郵便物認可

彩りのある生活空間を作りだす ①

前回までは、「介護食」や「食育」の普及に向けた様々な活動から、「食」を、生きる可能性や意欲を育む手段として活用していくことの大切さを考えてみました。

今回から二回は「住」をテーマに、心理面に配慮した生活空間を提供していくために必要な事柄について考えます。今回は、「色彩NPO日本カラーネットワーク協会」の活動を紹介しながら、色彩の持つ意味とその効果的な活用について考えてみたいと思います。

色は心のメッセージ

東京渋谷区にある「色彩NPO日本カラーネットワーク協会」(以下、協会は、カラーコーディネーターや色彩を学ぶ方々が中心となり、平成十二年に、日本で最初の色彩NPOとして活動を開始しました。

「色彩の知識や技術を学ぶ人が多くなってきた中で、自分の習得したものを生かした活動の場が作れないか。そんな思いから、高齢者や障害者施設、不登校の子どもたちのフリースクールなどでの色彩ボランティア活動がスタートしました。色彩と心理を結び付けたこの活動では、普段疾病や障害によって、自分の思いを上手に伝えることが難しい方々に、様々な色のカラーカードを使ったゲームやイラストへの着色をしていただき、その時選びとった形や色を塗っていく様子から、心の状態や内面にある思いを汲み取ってあげ

られるよう努めます。この作品(三段目中央)は、半身麻痺のある高齢男性の作品です。この方は作品を作る際、大きい気球は息子が乗れるのだと話されていました。色の選択ははつきりしておりとても力強く色を塗られていましたが、最後まで小さい気球は着色されま



高齢者施設でのボランティア活動のようす。語り合い、よりそいながら1つ1つ色を選んでいく

せんでした。施設に來られてからほとんど面會に來ることのない息子さんを、どの色で表現すればいいのか迷ったからではないでしょうか。大きい気球の上部に塗られた『不安』や『迷い』をイメージする紫色からそんな気持ちを読み取ることができます。それでも、その紫色を小さい気球の方に塗り伸ばし、二つの気球につながりを持たせることで、『一緒に飛んで行くのだ』と話されていたのが印象



大きい気球の右上にはみ出している色は紫色。色を塗れない小さい気球に塗り伸ばされている

的でした。色彩ボランティアでは、そんな一人ひとりの気持ちに添ってあげられるような活動をしていきたいと考えています」と、協会副理事長の須貝ミサオさんは話します。

色は空気をしる

協会では、色彩心理を応用して福祉施設の環境整備や、バリアフリー商品などの開発に向けた、色彩提

案も行っています。

協会理事長のヨシタミチコさんは「環境の中にある色を一つひとつの点で見えていくのではなく、全体的な面で見えるようにしながら色彩を提案していきます。特に、福祉施設の場合、入所されている方が過ごす空間は生活に邪魔にならないよう無意識に感じられる色を。

一方、通所で利用される方が過ごす空間では、日常から離れて気分転換することができるよう、明るく楽しいと感じられる色をご提案します。また、西日が強い場所への暖色の配置を避ける、地域の景観に配慮した外観を考えていくなど、建物の構造や地域性などを配慮した色選びを心がけています。

先日、高齢者施設の電話コーナーの色彩をご提案させていただきましたが、まず考えたのは、高齢者の方々がどんな時に電話を利用されるかということでした。住み慣れた地域や家族から離れて生活する方々の多くは、どちらかというと楽しいことではなく、寂しさや不安な気持ちを癒そうと受話器を取るのではないかと。そう考えた私たちは、少しでも気分が和らぐよう、壁の色をポップで楽しい色にするという逆の仕掛けを試してみたところ、利用者の方にとっても好評だということです。このように

ひと・ネットワーク 131

「かながわ高齢者文化祭で
お会いしましょう」

神奈川健康生きがいきづくり
アドバイザー協議会
事務局長 目島公男



「神奈川健康生きがいきづくりアドバイザー協議会」（略称：神奈川健生）は、来年5月で設立から10年目を迎えます。

「健康生きがいきづくりアドバイザー」は、厚生労働省所管の「(財)健康・生きがい開発財団」の認定資格を取得した、中高年齢者の健康と生きがいきづくりを企業内や地域で支援する専門家です。神奈川健生は、県下165名のアドバイザーが参加しているボランティア団体で、高齢化社会における中高年齢者の健康と生きがいきづくりを支援する様々な事業及び活動を行う事を目的とし、併せて、会員相互の資質の向上、情報交換、親睦のための活動を行っています。会員は、男性8割、女性が2割で、年齢構成は30歳代から80歳代までと幅広く分布しており、神奈川県を9地区に分けて活動しております。

特筆する活動の一つに「かながわ健生クラブ」があります。このクラブは県民を対象に、健康生きがいきづくりのための余暇活動を定例的に行い、地域の仲間づくりを推進することを目的とした活動で、平成11年4月からスタートしました。5年目を迎えた現在では、会員200余名を抱えたクラブに発展して、毎月、史跡や名所をめぐり、四季の自然や風物を楽しみ、歴史や文化に触れながら、中高年齢者の健康と生きがいきづくりの支援を行っています。

「かながわ高齢者文化祭」には、第12回から連続して参加しており、皆様のお役に立つよう努力してきました。第15回目となる今年の文化祭（9月27～28日、会場：県社会福祉会館）には、「ライフプラン個別相談コーナー」を設けることにしました。「家庭経済」と「生きがい」の2分野について多彩な資格を持ち、日頃から相談・助言を行なっている専門家を集めて、皆様の相談をお受けしたいと準備しております。是非、皆様お出かけください。

お問合せ・申込み：FAX 045-823-7382
e-mail: mejisann@k6.dion.ne.jp

人生を豊かに彩る

色は場の空気を作るとともに、効果的な組み合わせにより、そこに集う方々の生活にリズム感をもたらします」と話します。

このほか協会では、色彩による心のケアを広げていくことを目的とした「色彩ビアカウンセラー」の養成（※）や研修会、セミナー等の開催、色彩調査の実施などを通じて、一人でも多くの方に色彩の魅力とその大切さを知ってもらおうと活動しています。

「多くの方は、高齢者をイメージする色と言われると、濃い茶色や緑色など、比較的暗くて渋い色を選ばれます。反面、『自分の高齢

期を色で表現するならどんな色ですか？』という問いには、女性は

柔らかな感じのピンクや赤、黄、男性は爽やかな緑や黄緑など、暖かみや優しさを感じさせる色を選

ばれる。これは、少しでも明るく楽しい高齢期を迎えたいという願望の表れだと感じます。高齢化社会を迎え、精神面での快適性が重視されようとしている今、色は生

活に彩りを与える大切な役割を担っていくと思っています」と結んでくださいました。

◆色彩NPO日本カラーネットワーク協会

☎ 03-3406-9185

URL <http://www.npo-jana.or.jp/>

※第六期講座案内は本紙九面参照



色を持つ不思議な魅力と、その力について勉強させていただいた今回の取材。

しかしながら、色を効果的に活用しようと、施設の構造や配置にまで手を加えることは難しいのが現状です。では、既存の状況を生かして色をどう配していけばいいのか。その問いにヨシタさんは、「利用者の目線にあわせた色の配置と、効果的にテーマカラーを用いること」と助言してくださいました。

例えば高齢者であれば、特に視線が集中する床を、テーマカラーと対照となる色を上手に組み合わせ、メリハリを持たせることができ

る。また、識別しやすい色を用いた誘導線や生活空間の中で違和感の持たれることのない色とデザイ

ンの誘導サインを考えることで、高齢者自身の可能性を引き出すきっかけを作る。さらに、眠る・食

るなど、生活空間に合わせた照明の色や明るさを考えてみるなども一考ではないかとのお話でした。

「病院のイメージカラーは？」と言うと、多くの方々は「白」と答えます。では「福祉は？」と問うと、ピンクや黄緑など人によって答えは様々。それだけに利用者の心を

彩る色をどう配していくかが、今後の福祉事業を豊かにする鍵になるのかもしれない。

（企画課）



誰もが安心して集える「みんなのわが家」 NPO法人かがやき会（秦野市）

物に溢れ、暮らしが豊かになつたと言われる現代。反面で、少子高齢化による核家族化や人口の一極集中などによる地域の過疎化など、住み慣れた地域の中で人と人、とがともに支え合い、助け合うことのできる人間関係を築くことが難しくなってきたといつた声を聞くことも少なくありません。

今回は、地域の中で「みんなのわが家」づくりを目指す「NPO法人かがやき会」（以下、会）理事長の高畠輝さんと渡辺徳男さんにお話を伺いました。

横のつながりをはぐくむ場所

会では、赤ちゃんからお年寄りまで、障害のある人も元気な人も悩みを抱えた人も、誰もが皆安心して集える場を地域の中に作り出すと、最初の活動として障害者地域作業所を平成十二年に開所。翌年にはNPO法人の認証を受け、子育て支援なども加えた本格的な活動を開始しました。

「現在同じ敷地内で、子育て支援センターと障害のある方々の地

域作業所・かがやきのほか、そこに集う方々や家族を対象としたカウンセリングセンターを運営しています。子どもは一人ひとり皆違うのだから、個性に合わせた育て方をその都度考えていかなければならないものだと思います。そういう意味では、実のお母さんでも



子育て支援センターで行う「親と子の生活学校」では、お母さん同士が協力し合い楽しいひと時を過ごす

既に子育て経験のあるお母さんでも、子育ては分からないのが当たり前。だからこそ同じ子育てをするお母さん同士が一緒になって考え、知恵を出し合う場が必要だと感じています。子育て支援センターで開催する様々な活動を通じて知

り合ったお母さんたちが、自分の心に余裕が持てるようになることで、他のお母さんの子育てを応援できるようになる。そんな活動の広がりを期待しているのです」と高畠さん。

また、地域作業所・かがやき所長の渡辺さんは、「人は時間というリズムの中で、人間らしく生きようと様々な活動をします。障害があるということでもリズムを崩したり、活動が制限されたりしてしまいがちな方々にとって、作業所が自分らしい生活リズムを刻み、輝くことのできる場所になればと思っています。利用者の方は比較的重度の方が多く、人との関わりが難しい方も少なくありません。しかし、作業所に来るようになってから表情が明るくなり、話しかけに反応してくるようになった方もあり、支援する私たちの心構え一つで、楽しさややりがいを感じてもらえるのだということを痛感しています」と話します。

お母さんや子どもたち、障害のある方々とその家族、そして地域の人たちが自然に世代を超えて交流できる、そんな温かな「家」の今後の活動を期待します。（企画課）

NPO法人かがやき会
☎ 0463-77-11052
e-mail: kagayaki@happytown.ocn.ne.jp

—社会福祉施設の設計監理—

株式会社 安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES'Inc.

東京都港区高輪2-19-17-808

TEL03(3449)1771(代)／FAX03(3449)1772
E-mail: BCH12011@nifty.com



S保育園（川崎市）



新築・増築・改修等お気軽にご相談ください